

## 巻頭言

総合文化研究所所長

西永良成

『総合文化研究』第六号をお届けする。第一号はロシア・東欧、第二号は東アジア、第三号は東南アジア、第四号はヨーロッパ・地中海、第五号は南西アジア、とそれぞれの地域の文化と文学を特集し、この第六号はアメリカ・ドイツを中心とする表象文化の特集を組んだ。取り扱われた分野の多様性、執筆者の国際性、いずれの面でも「トランス・カルチュラル・スタディーズ」の名にふさわしい充実した内容を備えたものになった。この号の編集を担当された荒このみ、谷川道子両教授のご努力に感謝したい。

この第六号をもって、世界の各地域の文化・文学を特集する本研究所の当初の企画も一巡し、次号からは別の視野から新たな企画を実施したい。この『総合文化研究』をこれまで以上に充実し、魅力ある雑誌にしていきたいと念じている。

昨年、本学を退官されたスペイン・ラテンアメリカ文学の牛島信明氏がこの暮れに急逝された。また、この三月にはジャワ文化の石井和子教授、古典文学・比較文学の杓掛良彦教授、朝鮮文学の三枝壽勝教授、アラビア文学の奴田原睦明教授がそろって定年退職される。私たちの研究所にとっては大変な痛手、空白になる。新たな血をくわえるところにも、私をふくむ本研究所員がこれまで以上に研究、研鑽に励まなければならぬと痛切に思う。この意味でも、前研究所長の亀山郁夫教授が労作『磔のロシアースターリンと芸術家たち』によって、今年度の第二九回大佛次郎賞を受賞されたのは大変な朗報であり、心から祝福したい。亀山教授のこの快挙は、今後私たちの研究所所員にとっても、きつと有意義な刺激になってくれることが期待されるからである。

本研究所は例年通り、荻野アンナ、津島祐子、多和田葉子といった現代日本の代表的な作家たちをお招きした公開講演会「作家の〈言葉〉」シリーズをはじめとして、いくつかの公開講演会、シンポジウムを開催した。これらの催しを後援された国際言語文化財団に、この場を借りて深い感謝の気持ちを表しておきたい。